

2018 年度 第 2 回附属校・提携校 英語科授業研究会

附属校英語科研究会、附属校教育研究・研修センター

2018 年 12 月 22 日(土)に、立命館附属校・提携校の先生方を対象に第 2 回英語科授業研究会を開催した。

今回は「達成させたいタスクの実践のための scaffolding の方法」というテーマで実施した。

小・中学校の先生方の実践報告のあと、立命館大学 教授湯川笑子先生の講義、そして研究協議を行った。参加者は、15 名人（立命館小 5 人、立命館中・高 5 人、立命館大学学生 5 人）であった。

1. 授業実践報告

① 立命館小学校：三ツ木由佳先生

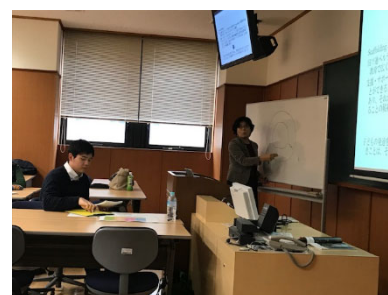
Scaffolding の方法として、ティーチャートークの方法や児童に配布するワークシートによるアウトプットの手助けについて。「教員が英語で授業をする」ということがただ英語を話していればよいという事ではなく、児童にとって理解可能なものにするための話し方のテクニックやティームティーチングを活かした話し方についてのレクチャーや、限られた英語の中でアウトプットにつなげていくためのヒントをちりばめたワークシートの作成法について中学や高校にも通じる手助けの方略をお話いただいた。

② 立命館中学高等学校：松尾由紀先生

教材例をとともに、主に中学生への Scaffolding をレベルごとに示した。主にアウトプットにつなげるためのワークシートの工夫や単元の流れとして最後のアウトプットまでどのようにつなげていくかの流れについての話。英語の理解や発信だけではなく、思考を促し、その生徒にしかできないオリジナリティのあるアウトプットに持っていくための工夫についても紹介された。

2. 湯川笑子教授の講義

まず Scaffolding の種類として①アウトプットに関するもの（言語的・産出する中身に関するもの）、②インプットに関するもの（言語的・表現されている中身の理解に関するもの）、③自力で思考をすることを助ける（テーマに関わる問いや現象について考えることに関するもの）ものの 3 種類を紹介された。グループごとに担当している生徒たちに対して普段行っている Scaffolding を話し合っていただき、共有した。





また湯川教授が研究中の EMI（大学での英語開講の授業）を効果的に行うための教員側の戦略についてご紹介いただき、自分たちが既に授業で行っていることの共通点を見出したり、新たに自分たちの教室に応用できそうなものについて考察した。

3. 参加者の感想

① 実践報告やグループでの話し合いや各班の発表を通じた学び

や気づき

・ It was a good chance to share what each of us is experiencing and/or may have frustrations with in the classroom.

・ 英語で話を聞き続けられる姿勢をつくるために、小学校での実践をご紹介いただき大変有意義でした。高校でも All-English での授業は（コースによりますが）簡単なことでない状況ですので、勉強になりました。Scaffolding の分類は今回独自のものだったのか、少し気になりました。

・ 子どもたちのレベルの違いによって、どんなヒントを与えれば良いのか、みんなも同じ悩みをもっていることをシェアし、改めてワークシートなどの一工夫で、ずいぶん改善の糸口があると、気付くことができました。

・ 三ツ木先生と松尾先生のご実践の素晴らしさに改めて刺激を受けました。ワークシートの工夫や、単元を通してどのようなアウトプットに繋げるか等、大変参考になりました。また、scaffolding についてのグループ討議を通して、recasting や内容を深めるための questioning の難しさを認識したと同時に、生徒のレベルを見極めることや stop+verbalize などの scaffolding の大切さについて考えるきっかけとなりました。

・ 普段の授業を振り返ってみると、何となく scaffolding しているように思っていたのですが、実践報告を聞いて、scaffolding の仕方・工夫が教材の準備段階から大切だということに改めて気づきました。松尾先生のワークシートなど大変勉強になりました。

② 湯川笑子先生の講義についての学びや気づき

・ Her talk made me think more about output scaffolding.

・ 生徒のレベルの見極めと適切な Scaffolding の組み立てを授業で行っていく必要があったわけですが、今までの授業の中での誤りに気づきました……。難しすぎるタスクで少ししか Scaffolding なかったりしたので。

・ 先生の講義で、細かく種類別に解説して頂いたので、自分では気付いていなかったが、お隣さんと相談や確認をさせることも、一つのテクニックとして大変有効と改めて思いました。

・ scaffolding に、インプットやアウトプットのみならず思考を助ける scaffolding があるということに改めて気づかされ、またこのことは現在の授業で意識し工夫していかなければならない点であると思いました。

・ 大学で使われている教授ストラテジーが中高の教授法と共通する点も多く、小中高大の連携の手助け

になりそうだと思います。また、scaffoldingについてあやふやだった点もクリアになり、改めて考える機会をいただきました。

③ 全体を通した感想や次回への提案など

・focus on curriculum and materials sharing(The spiral concept might be useful at the junior and senior high levels too. We can try to increase awareness of how to review vocabulary or grammar structures, with more added and with baby steps in complexity.)

・タスク考案のtips (タスク考案のためのヒントが欲しいです)

・生徒のレベル見極めの指標。他の先生どうやって生徒の見極めをなさっていて、タスクを組み立てておられるのか。

・ティーチャートークについて、さらに深く学びたいです。

・ディスカッションの方法と指導法、ファシリテーションの方法と授業での活かし方

(記録 立命館中高 松尾由紀、編集 附属校教育研究・研修センター 羽田澄)